

## 8課

# キリストの卓越性

2月21日

安息日午後

2月14日

### 暗証聖句

御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいつさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。(コロサイ1:15~17、口語訳)

御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。(コロサイ1:15~17、新共同訳)

### 今週の聖句

創世記1:26、27、コロサイ1:13~19、ヨハネ1:1~3、エフェソ(エペソ)1:22、  
Iコリント12:12~27、Iコリント4:9、ローマ6:3、4

### 今週のテーマ

今週の研究では、コロサイの信徒への手紙(コリント人への手紙)の考察を再開します(1課と2課参照)。**[2課、木曜日では]**コロサイ1:9~12で、パウロはコロサイの信者のために祈り、彼らが神に喜ばれる生き方をするように求めています。また同1:12、13でパウロは、光と闇という二つの領域、つまり「光の王国」(12節、英訳NIV “the kingdom of light”)と「闇の力(やみの力)」(13節)を対比しています。父なる神は、光の領域を永遠に相続する資格を私たちに与え、闇の力から私たちを救い出し、「その愛する御子の支配下に移してくださいました。わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです」**[口語訳「その愛する御子の支配下に移して下さいました。わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである」]**(コロ1:13、14)。

言い換えれば、私たちは、神にして創造主なる人間イエスによって贖われているのです。イエスは私たちのために贖いを成し遂げられ、彼を信じる信仰によって、私たちは闇の領域から神の御子の王国へ移されました。今週は、イエスに関する最も崇高な聖句(コロ1:15)の一つに目を向けます。

**【参考】英語テキストには最後に以下の一文があります。**

What does it mean that Jesus is “the image of the invisible God,” yet also “the firstborn over all creation” (Col. 1:15)?

イエスが「見えない神の姿」[口語訳「見えない神のかたち」]でありながら、「すべてのものが造られる前に生まれた方」[口語訳「すべての造られたものに先だって生れたかた」]である(コロ1:15)とはどういう意味でしょうか。

53

### コロ 1:9～15 (新共同訳)

1:9 こういうわけで、そのことを聞いたときから、わたしたちは、絶えずあなたがたのために祈り、願っています。どうか、“霊”によるあらゆる知恵と理解によって、神の御心を十分悟り、

1:10 すべての点で主に喜ばれるように主に従って歩み、あらゆる善い業を行って実を結び、神をますます深く知るようになる。

1:11 そして、神の栄光の力に従い、あらゆる力によって強められ、どんなことも根気強く耐え忍ぶように。喜びをもって、

1:12 光の中にある聖なる者たちの相続分に、あなたがたがあずかれるようにしてください。感謝するように。

1:13 御父は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました。

1:14 わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。

1:15 御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。

### Col. 1:12、13 (NIV)

1:12 and giving joyful thanks to the Father, who has qualified you to share in the inheritance of his holy people in **the kingdom of light**.

1:13 For he has rescued us from **the dominion of darkness** and brought us into the kingdom of the Son he loves,

### コロ 1:9～15 (口語訳)

1:9 そういうわけで、これらの事を耳にして以来、わたしたちも絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力をもって、神の御旨を深く知り、

1:10 主のみこころになつた生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである。

1:11 更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしたがって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び、

1:12 光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。

1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さいました。

1:14 わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。

1:15 御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。

鏡や写真を見ると、私たちは自分の姿を見ますが、それは平面的で二次元的な肖像です。ある意味で彫刻は、より明確なイメージを与えてくれますが、それでもなお、生き生きとし、呼吸し、活気に満ちた実物には遠く及びません。聖書における「姿(image)」「口語訳「かたち)」という概念は、時としてこのような劣った表現を指すこともあります。より広い意味を示唆しています。

問1 創世記 1:26、27、5:3、Iコリント 15:49、IIコリント 3:18、ヘブライ(ヘブル)10:1を読み、これらの聖句における「かたち」「似姿」「姿」「実体(真のかたち)」「英訳では、いずれも“image”」の意味を要約してください。それらは、イエスを「神の姿」「口語訳「神のかたち)」(コロ1:15)と記述している点と、どのように異なるでしょうか。

人間は、肉体的にも、霊的にも、関係的にも、機能的にも、可能な限り神に似せて創造されました。それでも、神の姿(かたち)を反映しているのは特定の側面だけであり、罪によってその側面さえも損なわれています。しかしイエスは、私たちに目に見えない神を「見る」ことができるようにしてください。「わたしを見た者は、父を見たのだ」〔口語訳「わたしを見た者は、父を見たのである」〕(ヨハ 14:9)と、言われました。イエスは、「神の本質の完全な現れ」〔口語訳「神の本質の真の姿」〕(ヘブ 1:3)です。イエスによって、私たちは神の思いを聞き取り、神のご品性を見ることができるのです。

問2 マタイ 11:27とヨハネ 1:1、2、14、18を読んでください。なぜイエスは、父なる神を啓示することができるのでしょうか。

イエスが父なる神との関係を説明された、ほかの表現にも注目してください。  
●「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ」〔口語訳「わたしの父は今に至るまで働いておられる。わたしも働くのである」〕(ヨハ 5:17)。  
●「わたしと父とは一つである」(同 10:30)。  
●「わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」〔口語訳「だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」〕(同 14:6)。

イエスはまた、神の名を用いて、絶対的な意味でご自身を繰り返し説明されました。「わたしはある」〔口語訳「わたしは有る」〕(出 3:14 参照)、「わたしが命のパンである」(ヨハ 6:35)、「わたしは世の光である」(同 8:12)、「わたしは復活であり、命である」〔口語訳「わたしはよみがえりであり、命である」〕(同 11:25)、「わたしが父の内におり、父はわたしの内におられる」〔口語訳「わたしが父におり、父がわたしにおられる」〕

(同 14:11)、「アブラハムが生まれる前から、わたしはある」〔口語訳「アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである」〕(同 8:58)。

**【参考】英語テキストにある文**

**If Jesus were anyone other than God Himself, what would it mean except that the Father sent some created being to die for us? Why is that so radically, and crucially, different from God Himself, in the Person of Christ, dying for us?**

もしイエスが神ご自身以外の誰かであったなら、それは父なる神が創造された存在を遣わして私たちのために死なせたに過ぎないことを意味するだけではないか。なぜそれが、キリストという御姿において神ご自身が私たちのために死なれたことと、根本的かつ決定的に異なるのだろうか。

54

**創 1:26、27 (新共同訳)**

1:26 神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」

1:27 神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。

**創 5:3 (新共同訳)**

5:3 アダムは百三十歳になったとき、自分に似た、自分にかたどった男の子をもうけた。アダムはその子をセトと名付けた。

**I コリ 15:49 (新共同訳)**

15:49 わたしたちは、土からできたその人の似姿となっているように、天に属するその人の似姿にもなるのです。

**II コリ 3:18 (新共同訳)**

3:18 わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。

**ヘブ 10:1 (新共同訳)**

10:1 いったい、律法には、やがて来る良いことの影があるばかりで、そのものの実体はありません。従って、律法は年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって、神に近づく人たちを完全な者にすることはできません。

**創 1:26、27 (口語訳)**

1:26 神はまた言われた、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべての這うものごとを治めさせよう。」

1:27 神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女に創造された。

**創 5:3 (口語訳)**

5:3 アダムは百三十歳になって、自分にかたどり、自分のかたちのような男の子を生み、その名をセツと名づけた。

**I コリ 15:49 (口語訳)**

15:49 すなわち、わたしたちは、土に属している形をとっているのと同様に、また天に属している形をとるであろう。

**II コリ 3:18 (口語訳)**

3:18 わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。

**ヘブ 10:1 (口語訳)**

10:1 いったい、律法はきたるべき良いことの影をやどすにすぎず、そのものの真のかたちをそなえているものではないから、年ごとに引きつづきささげられる同じようないけにえによっても、みまえに近づいて来る者たちを、全うすることはできないのである。

**コロ 1:15 (新共同訳)**

1:15 御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。

**ヨハ 14:9 (新共同訳)**

14:9 イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。

**ヘブ 1:3 (新共同訳)**

1:3 御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。

**マタ 11:27 (新共同訳)**

11:27 すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかに、父を知る者はいません。

**ヨハ 1:1、2、14、18 (新共同訳)**

1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は、初めに神と共にあった。

1:14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

1:18 いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいるひとり子である神、この方が神を示されたのである。

**ヨハ 5:17 (新共同訳)**

5:17 イエスはお答えになった。「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ。」

**ヨハ 10:30 (新共同訳)**

10:30 わたしと父とは一つである。」

**ヨハ 14:6 (新共同訳)**

14:6 イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。

**コロ 1:15 (口語訳)**

1:15 御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。

**ヨハ 14:9 (口語訳)**

14:9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしが分かかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。

**ヘブ 1:3 (口語訳)**

1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。

**マタ 11:27 (口語訳)**

11:27 すべての事は父からわたしに任せられています。そして、子を知る者は父のほかになく、父を知る者は、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者とのほかに、だれもありません。

**ヨハ 1:1、2、14、18 (口語訳)**

1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は初めに神と共にあった。

1:14 そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。

1:18 神を見た者はまだひとりもいない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである。

**ヨハ 5:17 (口語訳)**

5:17 そこで、イエスは彼らに答えられた、「わたしの父は今に至るまで働いておられる。わたしも働くのである。」

**ヨハ 10:30 (口語訳)**

10:30 わたしと父とは一つである。」

**ヨハ 14:6 (口語訳)**

14:6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

出 3:14 (新共同訳)

3:14 神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。』

ヨハ 6:35 (新共同訳)

6:35 イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。

ヨハ 8:12 (新共同訳)

8:12 イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」

ヨハ 11:25 (新共同訳)

11:25 イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。

ヨハ 14:11 (新共同訳)

14:11 わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。

ヨハ 8:58 (新共同訳)

8:58 イエスは言われた。「はっきり言うておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある。』

出 3:14 (口語訳)

3:14 神はモーセに言われた、「わたしは、有って有る者」。また言われた、「イスラエルの人々にこう言いなさい、『わたしは有る』というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と。

ヨハ 6:35 (口語訳)

6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。

ヨハ 8:12 (口語訳)

8:12 イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」。

ヨハ 11:25 (口語訳)

11:25 イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。

ヨハ 14:11 (口語訳)

14:11 わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。

ヨハ 8:58 (口語訳)

8:58 イエスは彼らに言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである」。

月曜日 2月16日 すべてのものが造られる前に生まれた方

※口語訳:すべての造られたものに先だって生れたかた(コロ1:15 参照)

新約聖書において、「長子」や「初めての子(初子・ういご)」といった言葉は、コロサイの信徒への手紙(コリント人への手紙)にも見られるように、ほぼ常にイエスを指しています(ルカ2:7、ロマ8:29、ヘブ1:6 参照)。しかし、ほかの人を指す場合でも、必ずしも年齢順に、最初に生まれた人を指すわけではありません。聖書の「長子」という概念は、出産順位に関係なく、息子が父親と持つ特別な関係を強調しており、イサク、ヤコブ、ヨセフなど、年下の息子のほうが重要な例もあります。

ダビデは8人息子の末っ子でありながら王に任命され(サム上16:10~13)、神は詩編(詩篇)記者を通してこう言われました。「わたしは彼を長子とし/地の諸王の中で最も高い位に就ける」〔口語訳「わたしはまた彼をわがういごとし、地の王たちのうちの

最も高い者とする」(詩編 89:28[口語訳 詩篇 89:27])。また、神はモーセにも、「イスラエルは……わたしの長子である」(出 4:22)と言っておられます。この文脈において、「長子」という言葉は、卓越(優位)性という点で、最初を意味しているのです。

問3 コロサイ 1:15~17 を読んでください。パウロは、イエスが「すべてのものが造られる前に生まれた方」[口語訳「すべての造られたものに先だって生れたかた」]と呼ばれている理由として、どのような点を挙げていますか。

明らかにパウロは、イエスが最初に造られたと言っているのではありません。実際、パウロはその可能性をきっぱりと否定しています。彼は、二度、二つの異なる方法で、イエスが万物を創造されたと述べています。万物は、イエスによって、イエスのために創造されました(コロ 1:16)。いずれの場合も、イエスは、神が創造の過程を実行する人格的な行為者として示されています(エフェ[エペ] 3:9、ヨハ 1:1~3、黙 4:11も参照)。

パウロの言葉は極めて包括的で、「すべて」とは、空間的(天と地)、存在論的(見えるもの、見えないもの)、機能的(王座、主権、支配、権威)にすべてを意味します。機能的な場合、通常、天使のような存在を指します(エフェ[エペ] 3:10、6:12 参照)。パウロは、誤解されることのないように、イエスが「すべてのものよりも先におられた」[口語訳「万物よりも先にあ(った)」](コロ 1:17)と指摘しています。このギリシア語の表現は、時間だけでなく序列の優先性も意味しますが、パウロの文書では、常に時間的な意味です(1 コリ 2:7、ガラ 1:17、エフェ[エペ] 1:4 参照)。

パウロがイエスの卓越性について挙げるもう一つの理由は、「すべてのもの(が)御子によって支えられている」[口語訳「万物は彼にあって成り立っている」](コロ 1:17)ことです。このギリシア語動詞(*synistēmi*)の文字どおりの意味は、「まとめる」「結合する」です。創造主であり、贖い主でもあるがゆえに、イエスは宇宙を統一する存在なのです。

#### 【参考】英語テキストにある続きの文

God, the Creator, died for us. What could our works add to that? Why is the idea that our works could add to what Christ has done already for us blasphemous

創造主である神は私たちのために死んでくださいました。私たちの行いは、それに何を加えられるだろうか(いや、加えられない)。キリストがすでに私たちのために成し遂げてくださったことに私たちの行いが何かを加えられるという考えが、なぜ冒瀆的なのでしょうか。

55

ルカ 2:7 (新共同訳)  
2:7 初めての子を産み、布にくるんで飼  
い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊ま

ルカ 2:7 (口語訳)  
2:7 初子を産み、布にくるんで、飼葉おけ  
の中に寝かせた。客間には彼らのいる余

る場所がなかったからである。

**ロマ 8:29 (新共同訳)**

8:29 神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとかあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです。

**ヘブ 1:6 (新共同訳)**

1:6 更にまた、神はその長子をこの世界に送るとき、「神の天使たちは皆、彼を礼拝せよ」と言われました。

**サム上 16:10~13 (新共同訳)**

16:10 エッサイは七人の息子にサムエルの前を通らせたが、サムエルは彼に言った。「主はこれらの者をお選びにならない。」

16:11 サムエルはエッサイに尋ねた。「あなたの息子はこれだけですか。」「末の子が残っていますが、今、羊の番をしています」とエッサイが答えると、サムエルは言った。「人をやって、彼を連れて来させてください。その子がここに来ないうちは、食卓には着きません。」

16:12 エッサイは人をやって、その子を連れて来させた。彼は血色が良く、目は美しく、姿も立派であった。主は言われた。「立って彼に油を注ぎなさい。これがその人だ。」

16:13 サムエルは油の入った角を取り出し、兄弟たちの中で彼に油を注いだ。その日以来、主の霊が激しくダビデに降るようになった。サムエルは立ってラマに帰った。

**詩 89:28 (新共同訳)**

89:28 わたしは彼を長子とし/地の諸王の中で最も高い位に就ける。

**出 4:22 (新共同訳)**

4:22 あなたはファラオに言うがよい。主はこう言われた。『イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。』

**コロ 1:15~17 (新共同訳)**

1:15 御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。

1:16 天にあるものも地にあるものも、見

地がなかったからである。

**ロマ 8:29 (口語訳)**

8:29 神はあらかじめ知っておられる者たちを、更に御子のかたちに似たものとして、あらかじめ定めて下さった。それは、御子を多くの兄弟の中で長子とならせるためであった。

**ヘブ 1:6 (口語訳)**

1:6 さらにまた、神は、その長子を世界に導き入れるに当って、「神の御使たちはことごとく、彼を拝すべきである」と言われた。

**サム上 16:10~13 (口語訳)**

16:10 エッサイは七人の子にサムエルの前を通らせたが、サムエルはエッサイに言った、「主が選ばれたのはこの人たちではない。」

16:11 サムエルはエッサイに言った、「あなたのむすこたちは皆ここにいますか」。彼は言った、「まだ末の子が残っていますが羊を飼っています」。サムエルはエッサイに言った、「人をやって彼を連れてきなさい。彼がここに来るまで、われわれは食卓につきません。」

16:12 そこで人をやって彼をつれてきた。彼は血色のよい、目のきれいな、姿の美しい人であった。主は言われた、「立ってこれに油をそそげ。これがその人である。」

16:13 サムエルは油の角をとって、その兄弟たちの中で、彼に油をそそいだ。この日からのち、主の霊は、はげしくダビデの上に臨んだ。そしてサムエルは立ってラマへ行った。

**詩 89:27 (口語訳)**

89:27 わたしはまた彼をわがういごとし、地の王たちのうちの最も高い者とする。

**出 4:22 (口語訳)**

4:22 あなたはパロに言いなさい、『主はこう仰せられる。イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。』

**コロ 1:15~17 (口語訳)**

1:15 御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。

1:16 万物は、天にあるものも地にあるも

えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。

1:17 御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。

**エフェ 3:9 (新共同訳)**

3:9 すべてのものをお造りになった神の内に世の初めから隠されていた秘められた計画が、どのように実現されるのかを、すべての人々に説き明かしています。

**ヨハ 1:1~3 (新共同訳)**

1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は、初めに神と共にあった。

1:3 万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。

**黙 4:11 (新共同訳)**

4:11 「主よ、わたしたちの神よ、あなたこそ、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を造られ、御心によって万物は存在し、また創造されたからです。」

**エフェ 3:10 (新共同訳)**

3:10 こうして、いろいろの働きをする神の知恵は、今や教会によって、天上の支配や権威に知らされるようになったのですが、

**エフェ 6:12 (新共同訳)**

6:12 わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。

**1 コリ 2:7 (新共同訳)**

2:7 わたしたちが語るの、隠されていた、神秘としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から決めておられたものです。

**ガラ 1:17 (新共同訳)**

1:17 また、エルサレムに上って、わたしより先に使徒として召された人たちのものに行くこともせず、アラビアに退いて、そこから再びダマスコに戻ったのでし

のもの、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいいものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。

1:17 彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。

**エペ 3:9 (口語訳)**

3:9 更にまた、万物の造り主である神の中に世々隠されていた奥義にあずかる務がどんなものであるかを、明らかに示すためである。

**ヨハ 1:1~3 (口語訳)**

1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は初めに神と共にあった。

1:3 すべてのものは、これによってできたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

**黙 4:11 (口語訳)**

4:11 「われらの主なる神よ、あなたこそは、栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。あなたは万物を造られました。御旨によって、万物は存在し、また造られたのであります。」

**エペ 3:10 (口語訳)**

3:10 それは今、天上にあるもろもろの支配や権威が、教会をとおして、神の多種多様な知恵を知るに至るためであって、

**エペ 6:12 (口語訳)**

6:12 わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

**1 コリ 2:7 (口語訳)**

2:7 むしろ、わたしたちが語るの、隠された奥義としての神の知恵である。それは神が、わたしたちの受ける栄光のために、世の始まらぬ先から、あらかじめ決めておかれたものである。

**ガラ 1:17 (口語訳)**

1:17 また先輩の使徒たちに会うためにエルサレムにも上らず、アラビアに出て行った。それから再びダマスコに帰った。

た。

エフェ 1:4 (新共同訳)

1:4 天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。

エペ 1:4 (口語訳)

1:4 みまえにきよく傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、

## 火曜日 2月17日 体(教会)の頭

問4 エフェソ(エペ) 1:22 とコロサイ 2:10 を読んでください。これらの聖句で、「頭(かしら)」は何を意味しますか。パウロはどういう意味で、イエスを「教会の頭」〔口語訳「教会のかしら」〕(エフェ〔エペ〕5:23)と呼んでいるのでしょうか。

世界中の無数の言語において見られるように、指導的な地位に関して、「頭(かしら)」という言葉を経験的に用いることは自然なことです。旧約聖書と新約聖書の至る所で、同様の用法が見られます。以下の聖句で、「頭(かしら)」という言葉がいかに用いられているか、注目してください〔該当する言葉は強調〕。

- (1) 出エジプト記18:25——モーセは、「全イスラエルの中から有能な人々を選び、彼らを民の長、すなわち、千人隊長、百人隊長、五十人隊長、十人隊長とした」〔口語訳「すべてのイスラエルのうちから有能な人を選んで、民の上に長として立て、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長とした」〕
- (2) 民数記31:26——「共同体の家長たち」〔口語訳「会衆の氏族のかしらたち」〕
- (3) 申命記28:13——「主の戒めにあなた〔イスラエル〕が聞き従うならば、主はあなたを頭とし、決して尾とはされない」〔口語訳「主はあなたをかしらとならせ、尾とはならせられないであろう。……主の戒めに聞き従……うならば」〕
- (4) イザヤ7:8——「アラムの頭はダマスコ、ダマスコの頭はレツィン」〔口語訳「スリヤのかしらはダマスコ、ダマスコのかしらはレズンである」〕
- (5) ホセア2:2(口語訳 1:11)——「ユダの人々とイスラエルの人々は……一人の頭を立て(る)」〔口語訳「ユダの人々とイスラエルの人々は……ひとりの長を立て(る)」〕
- (6) ミカ3:9——「ヤコブの家の頭たち/イスラエルの家の指導者たちよ」〔口語訳「ヤコブの家のかしらたち、イスラエルの家のつかさたちよ」〕
- (7) Iコリント11:3——「すべての男の頭はキリスト……です」〔口語訳「すべての男のかしらはキリスト……である」〕

このように、教会の頭(かしら)であるキリストは、教会の一致と成長のために指導と助言、そして糧を与えてくださいます(コロ 2:19 参照)。

問5 Iコリント 12:12～27 を読んでください。パウロはここでも、教会を「体(からだ)」と表現しています。この比喻は、教会にどのような別の側面があることを示していますか。

頭(かしら)なしには、体(からだ)が生きられないように、体の一部が失われたり、傷ついたりすると、人生ははるかに困難なものになります。私たちは何かを失うまで、それがどれほど重要であるかに気づかないことがよくあります。

片手が片目を失わなければならないとしたら、どちらを選びますか。この問いは、教会員一人ひとりがいかに重要であるかについて、何を教えていますか。

56

エフェ 1:22 (新共同訳)

1:22 神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。

コロ 2:10 (新共同訳)

2:10 あなたがたは、キリストにおいて満たされているのです。キリストはすべての支配や権威の頭です。

エフェ 5:23 (新共同訳)

5:23 キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。

出 18:25 (新共同訳)

18:25 全イスラエルの中から有能な人々を選び、彼らを民の長、すなわち、千人隊長、百人隊長、五十人隊長、十人隊長とした。

民 31:26 (新共同訳)

31:26 あなたは、祭司エルアザルと共同体の家長たちと共に、捕虜として分捕った人間と家畜の数を調べ、

申 28:13 (新共同訳)

28:13 わたしが今日、忠実に守るように命じるあなたの神、主の戒めにあなたが聞き従うならば、主はあなたを頭とし、決して尾とはされない。あなたは常に上に立ち、決して下になることはないであろう。

エペ 1:22 (口語訳)

1:22 そして、万物をキリストの足の下に従わせ、彼を万物の上にかしらとして教会に与えられた。

コロ 2:10 (口語訳)

2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、

エペ 5:23 (口語訳)

5:23 キリストが教会のかしらであって、自らは、からだなる教会の救主であられるように、夫は妻のかしらである。

出 18:25 (口語訳)

18:25 すなわち、モーセはすべてのイスラエルのうちから有能な人を選んで、民の上に長として立て、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長とした。

民 31:26 (口語訳)

31:26「あなたと祭司エレアザルおよび会衆の氏族のかしらたちは、その生けつた人と家畜の獲物の総数を調べ、

申 28:13 (口語訳)

28:13 主はあなたをかしらとならせ、尾とはならせられないであろう。あなたはただ榮えて衰えることはないであろう。きょう、わたしが命じるあなたの神、主の戒めに聞き従って、これを守り行うならば、あなたは必ずこのようになるであろう。

**イザ 7:8 (新共同訳)**

7:8 アラムの頭はダマスコ、ダマスコの頭はレツイン。(六十五年たてばエフライムの民は消滅する)

**ホセ 2:2 (新共同訳)**

2:2 ユダの人々とイスラエルの人々は、ひとつに集められ、一人の頭を立てて、その地から上って来る。イズレエルの日は栄光に満たされる。

**ミカ 3:9 (新共同訳)**

3:9 聞け、このことを。ヤコブの家の頭たち/イスラエルの家の指導者たちよ。正義を忌み嫌い、まっすぐなものを曲げ

**I コリ 11:3 (新共同訳)**

11:3 ここであなたがたに知っておいてほしいのは、すべての男の頭はキリスト、女の頭は男、そしてキリストの頭は神であるということです。

**コロ 2:19 (新共同訳)**

2:19 頭であるキリストにしっかりと付いていないのです。この頭の働きにより、体全体は、節と節、筋と筋とによって支えられ、結び合わされ、神に育てられて成長してゆくのです。

**I コリ 12:12~27 (新共同訳)**

12:12 体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。

12:13 つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。

12:14 体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。

12:15 足が、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。

12:16 耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。

12:17 もし体全体が目だったら、どこで

**イザ 7:8 (口語訳)**

7:8 スリヤのかしらはダマスコ、ダマスコのかしらはレゼンである。(六十五年のうちにエフライムは敗れて、国をなさないようにになる。)

**ホセ 1:11 (口語訳)**

1:11 そしてユダの人々とイスラエルの人々は共に集まり、ひとりの長を立てて、その地からのぼって来る。エズレルの日は大いなるものとなる。

**ミカ 3:9 (口語訳)**

3:9 ヤコブの家のかしらたち、イスラエルの家のつかさたちよ、すなわち公義を憎み、すべての正しい事を曲げる者よ、これを聞け。

**I コリ 11:3 (口語訳)**

11:3 しかし、あなたがたに知っていてもほしい。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神である。

**コロ 2:19 (口語訳)**

2:19 キリストなるかしらに、しっかりと着くことをしない。このかしらから出て、からだ全体は、節と節、筋と筋とによって強められ結び合わされ、神に育てられて成長していくのである。

**I コリ 12:12~27 (口語訳)**

12:12 からだが一つであっても肢体は多くあり、また、からだのすべての肢体が多くあっても、からだは一つであるように、キリストの場合も同様である。

12:13 なぜなら、わたしたちは皆、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、そして皆一つの御霊を飲んだからである。

12:14 実際、からだは一つの肢体だけではなく、多くのものからできている。

12:15 もし足が、わたしは手ではないから、からだに属していないと言っても、それで、からだに属さないわけではない。12:16 また、もし耳が、わたしは目ではないから、からだに属していないと言っても、それで、からだに属さないわけではない。

12:17 もしからだ全体が目だとすれば、

聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでおいをかぎますか。

12:18 そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。

12:19 すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。

12:20 だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。

12:21 目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。

12:22 それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。

12:23 わたしたちは、体の中でほかよりも恰好が悪いと思われる部分を覆って、もっと恰好よくしようとし、見苦しい部分をもっと見栄えよくしようします。

12:24 見栄えのよい部分には、そうする必要はありません。神は、見劣りの部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。

12:25 それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。

12:26 一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜びのです。

12:27 あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。

どこで聞くのか。もし、からだ全体が耳だとすれば、どこでかぐのか。

12:18 そこで神は御旨のままに、肢体をそれぞれ、からだに備えられたのである。

12:19 もし、すべてのものが一つの肢体なら、どこにからだがあるのか。

12:20 ところが実際、肢体は多くあるが、からだは一つなのである。

12:21 目は手にむかって、「おまえはいらない」とは言えず、また頭は足にむかって、「おまえはいらない」とも言えない。

12:22 そうではなく、むしろ、からだのうちで他よりも弱く見える肢体が、かえって必要なのであり、

12:23 からだのうちで、他よりも見劣りがすると思えるところに、ものを着せていっそう見よくする。麗しくない部分はいっそう麗しくするが、

12:24 美しい部分はそうする必要がない。神は劣っている部分をいっそう見よくして、からだに調和をお与えになったのである。

12:25 それは、からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うためなのである。

12:26 もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。

12:27 あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。

## 水曜日 2月18日 「初めの者」(そして創始者)

問6 コロサイ 1:18 を読んでください。キリストが頭(かしら)であるという考えと、キリストが「初めの者」であるという考えの間には、どのようなつながりがありますか。

ヘブライ(ハブル)語で「頭(かしら)」に相当する言葉(「ローシュ」と「初め」に相当する言葉(「レシート」)は、関連しています。後者の言葉が聖書で最初に使われているのは、創世記1:1においてです。「初めに、神は天地を創造された」〔口語訳「はじめに神

は天と地とを創造された」。イエスが人類と教会の頭(かしら)であるというのは、受肉のゆえにだけでなく、創造主でもあるからです。

ギリシア語で「初め(はじめ)」に相当する言葉(「アルケー」)は、広い意味を持っています。ここでの「初め」は、イエスが教会の源または創始者(コロ1:18)であり、教会の頭(かしら)であることを指しています。それは、イエスが創造の「初め(はじめ)」または創始者であることを意味しています。

イエスは、創造と教会の創始者であるだけでなく、死者の中からの復活を通して(ロマ6:3、4)、新しい創造の創始者でもあります。罪の報酬は死であるため〔ロマ6:23参照〕、死に対するイエスの勝利は、罪に対する勝利と、私たちを神のかたちに再創造する力も示しています。これらすべてが、イエスが「死者の中から最初に生まれた方」〔口語訳「死人の中から最初に生れたかた」(コロ1:18)〕である理由を示しています(「最初に生まれた方」の意味については、月曜日の研究を参照)。イエスの復活は、最初の復活ではありませんでしたが(モーセの復活が最初であり、それゆえ、彼の遺体のことで悪魔と言い争いが起こった〔ユダ9〕)、卓越した復活でした。キリストの復活がなければ、ほかの誰も死から復活することはできません。

ここで、イエスが卓越しておられる理由としてパウロが挙げたあらゆる理由を簡単に復習しておく、役に立つでしょう。

- (1) イエスは目に見えない神の完全なあらわれである。
- (2) イエスは万物を創造された主体である。
- (3) イエスはすべてのものより先におられ、すべてのものはイエスによって一つにまとめられる。
- (4) イエスは教会の頭(かしら)であり、教会はイエスの体(からだ)である。
- (5) イエスは創造と再創造の創始者である。
- (6) イエスは罪と死を征服し、救い主として彼を信頼するすべての人を復活させる権利を得られた。
- (7) イエスは常に存在してこられたが、今、これらすべてのおかげで、人類の頭(かしら)、教会の頭(かしら)として、卓越した地位を得られた。

#### 【参考】英語テキストにある続きの文

**What must you change so that you can better experience Christ's preeminence in your own life?**

あなた自身の人生において、キリストの卓越性をより深く体験するために、何を変えなければなりませんか。

57

コロ1:18 (新共同訳)  
1:18 また、御子はその体である教会の頭です。御子は初めの者、死者の中から最

コロ1:18 (口語訳)  
1:18 そして自らは、そのからだなる教会のかしらである。彼は初めの者であり、

初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。

創 1:1 (新共同訳)

1:1 初めに、神は天地を創造された。

ロマ 6:3、4 (新共同訳)

6:3 それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。

6:4 わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。

ロマ 6:23 (新共同訳)

6:23 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

ユダ 9 (新共同訳)

9 大天使ミカエルは、モーセの遺体のことで悪魔と言い争ったとき、あえてのりして相手を裁こうとはせず、「主がお前を懲らしめてくださるように」と言いました。

死人の中から最初に生れたかたである。それは、ご自身がすべてのことにおいて第一の者となるためである。

創 1:1 (口語訳)

1:1 はじめに神は天と地とを創造された。

ロマ 6:3、4 (口語訳)

6:3 それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。

6:4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。

ロマ 6:23 (口語訳)

6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

ユダ 9 (口語訳)

9 御使のかしらミカエルは、モーセの死体について悪魔と論じ争った時、相手をのりさばくことはあえてせず、ただ、「主がおまえを戒めて下さるように」と言っただけであった。

## 木曜日 2月19日 万物を和解させる

問7 コロサイ 1:19、20 を読んでください。十字架によってもたらされるこの和解とは、何ですか。それはどれほど包括的なものですか。

パウロは、コロサイ1:12で言及されている御父を遠回しに指し示しながら、イエスに関する説明を締めくくるにあたり、非常に興味深いギリシア語表現を用いています。御父は、ご自身の満ちあふれるもの〔口語訳:満ちみちた徳〕がイエスの内に宿することを喜ばれました(コロ 2:9と比較)。この「満ちあふれるもの」〔口語訳「満ちみちた徳」〕とは、何でしょうか。ヨハネはそれを、「恵みと真理とに満ちている」〔口語訳「めぐみとまことに満ちていた」〕(ヨハ 1:14)父の栄光であると言っています。

しかし、コロサイ1:19、20から判断すると、この「満ちあふれるもの」〔口語訳「満ちみちた徳」〕には、神の永遠性と自存性、神の創造力と再創造の力など、多くのことが含まれています。最も重要なのは、十字架という想像を絶する手段によって、

罪と死に打ち勝った神の知恵であることが強調されていることです。神は、十字架という最も不名誉なものを、すべての被造物に対する永遠の愛の証しに変えられました。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」〔口語訳「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」〕(ヨハ 3:16)。

罪が永遠に打ち負かされ、和解しうるすべてのものが和解される唯一の方法は、「神が愛してくださった」という輝かしい一つの真理に集約されます。つまり、神は宇宙を愛し、私たちを深く愛するがゆえに、キリストの十字架の死を通して私たちを救うためにすべてを犠牲にされたのです。「世」に相当するギリシア語は「コスモス」で、それは全宇宙を含みます。パウロは、キリストに従うという文脈の中で、この普遍的なあらわれについてこう述べています。「わたしたちは世界〔宇宙〕中に、天使にも人にも、見せ物となった」〔口語訳「こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ」〕(Iコリ 4:9)。

「天は、キリストが十字架にかか……るのを、悲しみと驚きの思いをもって眺めた。……サタンとサタンに加わっている者たちはみな、反逆の生活によって、神と調和しない立場に身を置くので、神の存在は彼らにとって焼き尽くす火となる。愛であられる神の栄光は彼らを滅ぼすであろう。

大争闘の始めには、天使たちはこのことを理解していなかった。……

しかし、大争闘が終わるときにはそうではない。その時には、あがないの計画が完結し、神のご品性がすべての知的被造物に明らかにされる。……

だから、天使たちは、救い主の十字架を眺めて喜ぶことができたはずである。……キリストが十字架上で、『すべてが終わった』(ヨハ 19:30)と叫ばれたとき、彼はそうしたことのすべてを予見しておられたのであった」(『希望への光』1079、1081、1082 ページ、『各時代の希望』第79章)。

58

#### コロ 1:12~20 (新共同訳)

1:12 光の中にある聖なる者たちの相続分に、あなたがたがあずかれるようにしてくださった御父に感謝するように。

1:13 御父は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました。

1:14 わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。

1:15 御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。

#### コロ 1:12~20 (口語訳)

1:12 光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。

1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さいました。

1:14 わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。

1:15 御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。

1:16 天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。

1:17 御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。

1:18 また、御子はその体である教会の頭です。御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。

1:19 神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、

1:20 その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

#### コロ 2:9、10 (新共同訳)

2:9 キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、

2:10 あなたがたは、キリストにおいて満たされているのです。キリストはすべての支配や権威の頭です。

#### ヨハ 1:14 (新共同訳)

1:14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

#### ヨハ 3:16 (新共同訳)

3:16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

#### 1コリ 4:9 (新共同訳)

4:9 考えてみると、神はわたしたち使徒を、まるで死刑囚のように最後に引き出される者となさいました。わたしたちは世界中に、天使にも人にも、見せ物となったからです。

1:16 万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。

1:17 彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。

1:18 そして自らは、そのからだなる教会のかしらである。彼は初めの者であり、死人の中から最初に生れたかたである。それは、ご自身がすべてのことにおいて第一の者となるためである。

1:19 神は、御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ、

1:20 そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。

#### コロ 2:9、10 (口語訳)

2:9 キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、

2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、

#### ヨハ 1:14 (口語訳)

1:14 そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。

#### ヨハ 3:16 (口語訳)

3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

#### 1コリ 4:9 (口語訳)

4:9 たしはこう考える。神はわたしたち使徒を死刑囚のように、最後に出場する者として引き出し、こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。

ヨハ 19:30 (新共同訳)  
19:30 イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。

ヨハ 19:30 (口語訳)  
19:30 すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終わった」と言われ、首をたれて息をひきとられた。

金曜日 2月20日 さらなる研究

「ただの人間で、イエスが言われたようなことを言う人は、偉大な道徳の教師にはなり得ない。その人は、『自分はポーチドエッグだ』と言う人と同じレベルの気が狂っている人か、さもなければ、地獄の悪魔のどちらかであろう。あなたは選択しなければならない。この人〔イエス〕は、神の子であった(今もそうである)か、さもなければ、狂人、あるいはもっと悪い存在であったか、どちらかである。彼を愚か者として黙らせることも、悪魔として唾を吐きかけ、殺すこともできるし、あるいは、彼の足もとにひれ伏して、彼を主、神と呼ぶこともできる。だが、彼は偉大な人間の教師であったというような、ばかげた考えを擁護しないようにしよう。彼は私たちに、そのような選択の余地を残しておられないし、そんな意図も持っておられなかったのである」(C・S・ルイス『キリスト教の精髓』41 ページ、英文)。

【参考】—— C. S. Lewis, *Mere Christianity* (New York, Collier Books, 1952), p. 41.

“A man who was merely a man and said the sort of things Jesus said would not be a great moral teacher. He would either be a lunatic—on a level with the man who says he is a poached egg—or else he would be the Devil of Hell. You must make your choice. Either this man was, and is, the Son of God: or else a madman or something worse. You can shut Him up for a fool, you can spit at Him and kill Him as a demon; or you can fall at His feet and call Him Lord and God. But let us not come with any patronising nonsense about His being a great human teacher. He has not left that open to us. He did not intend to.

「御子は、満ちあふれる神性〔口語訳：満ちみちているいっさいの神の徳(コロ2:9)〕が、余すところなく現された方です。神の御言葉は御子を、『神の本質の完全な現れ』〔口語訳『神の本質の真の姿』(ヘブ1:3)〕であると宣言しています」(『伝道』下巻 390 ページ)。

「キリストは先在し、自存される神の御子です。……ご自分の先在について語られることによって、キリストは永遠の昔に言及しておられました。キリストが永遠の神と親しく交わっておられなかった時はないと、キリストは私たちに確言されます。……キリストは神と同等で、無限で、全能です。……彼は永遠の、自存される御子です」(『伝道』下巻 391 ページ)。

## 話し合いのための質問

- ① 永遠の神なるイエスについて、さらに深く考えてみてください。もしイエスが永遠の神ではなく、創造された存在だったら、救済計画全体や十字架での犠牲はどのような意味を持ちますか。なぜこの教えがとても重要なのでしょうか。イエスが永遠の神ではないという考えに陥ったとき、私たちは何を失うことになるのでしょうか。安息日学校のクラスで、話し合ってください。
- ② イエス、福音、救済計画について考えるとき、なぜ私たちは、イエスが地上でなされたことに全宇宙が関与し、関心を持っているという視点を、常に覚えておく必要があるのでしょうか。墮落していない全宇宙は、イエスの永遠の栄光を知っていました。自分たちが天で礼拝していたお方が十字架で死ぬのを見たとき、彼らはどのような思いを抱いたのでしょうか。
- ③ 父なる神と御子がいつも共におられたことを信じない人に、あなたは何と言いますか。これは、なぜ重要な真理なのでしょうか。十字架上で一時的に「神の力が切り離された」（参照『SDA 聖書注解』第7巻 924 ページ、英文 **“sundering of the divine powers”**）時を除いて、父なる神が御子と離れたことは一度もないことを、どう説明しますか。

59

### コロ 2:9 （新共同訳）

2:9 キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、

### ヘブ 1:3 （新共同訳）

1:3 御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。

### コロ 2:9 （口語訳）

2:9 キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、

### ヘブ 1:3 （口語訳）

1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。